

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 7月10日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-201180

[ST.10/C]:

[JP2002-201180]

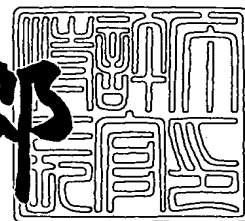
出 願 人
Applicant(s):

株式会社栄商会

2003年 1月17日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2002-3104605

【書類名】 特許願

【整理番号】 P0021400

【提出日】 平成14年 7月10日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A45C 11/04

【発明者】

 【住所又は居所】 静岡県浜松市神立町 1 1 6 番 5 株式会社栄商会内

 【氏名】 吉澤 隆

【特許出願人】

 【識別番号】 300035294

 【氏名又は名称】 株式会社栄商会

【代理人】

 【識別番号】 100087550

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 梅村 莞爾

 【電話番号】 03-3255-2531

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 055240

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】明細書

【発明の名称】眼鏡ケース

【特許請求の範囲】

【請求項 1】上蓋及び下蓋からなる眼鏡ケースであって、上蓋に取り付けられたボタン部と、上蓋及び下蓋との接触部に取り付けられた回転具とが設けられ、ボタンの押脱により回転具内のスプリングが動き上蓋がゆっくりと上方に開放することを特徴とする眼鏡ケース。

【請求項 2】前記回転具は、スプリングを支持する支持軸と該支持軸を内包する外匡とが一体化され、更に前記支持軸内にはオイルが封入されていることを特徴とする請求項 1 記載の眼鏡ケース。

【請求項 3】前記回転具は、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはベーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成されることを特徴とする請求項 1 記載の眼鏡ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、上下蓋体が一体化した眼鏡ケースに関し、更に詳しくは、上下蓋体接触部に内部にオイルを充填してある回転具を取り付け、上部蓋体がゆっくりと上部に回動する眼鏡ケースに関する。

【0002】

【従来技術】

従来の眼鏡ケースのうち上蓋と下蓋とが一体的な眼鏡としては、実開平 2 - 1 1 4 3 1 号「収納個付メガネケース」に示されるように、側端部にヒンジ部を介して上下に開放される構造の眼鏡ケースは公知である。

【0003】

この形状の眼鏡ケースは、両手で押さえながら開放側に設けられた解放口を少し開け、その後に開放限度一杯まで開放して内部保管してある眼鏡を取り出したり、或いは逆に閉めたりするのが通常であった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら上記の従来型の眼鏡ケースは、両手を使用して上蓋を開放しなければならず、片手で操作が行えるような眼鏡ケースのように、例えばボタンを外すと自動的に上蓋が上方に開放するタイプの眼鏡ケースは今まで知られていなかった。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明者は係る課題を解決するために鋭意研究したところ、上蓋と下蓋との接触部に回転具を取り付け、回転具内の回転軸を利用して自動的に回転する眼鏡ケースを製造することができた。

【0006】

すなわち本発明の第一は、上蓋及び下蓋からなる眼鏡ケースであって、上蓋に取り付けられたボタン部と、上蓋及び下蓋との接触部に取り付けられた回転具とが設けられ、ボタンの押脱により回転具内のスプリングが動き上蓋がゆっくりと上方に開放することを特徴とする眼鏡ケースである。

【0007】

本発明の第二は、前記回転具は、スプリングを支持する支持軸と該支持軸を内包する外筐とが一体化され、更に前記支持軸内にはオイルが封入されていることを特徴とする請求項1記載の眼鏡ケースである。

【0008】

本発明の第三は、前記回転具は、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはベーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成されることを特徴とする請求項1記載の眼鏡ケースである。

【0009】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明に係る眼鏡ケースの斜視図である。本発明の眼鏡ケース1は、上蓋2及び下蓋3とが一体となるケース型形状であり、接合部の両端部に2ヶの回転具6と反対側に設けられた上蓋を開放するボタン4がボタン取付部5上に取り付けられている。

【0010】

この場合、ボタン取付部のボタンは、片手で外方向に引っ張るか、或いは内方向に押すと内部で上蓋2と下蓋3とを係合する係合部が外れる構造となっている。

【0011】

上記係合部が外れると、上蓋2は他端部に設けられた2ヶの回転部6の働きで上方に開放される構造となっているが、上記係合部の外れと共に直ぐに上方に開放するのではなく、回転具6内に充填されたオイル9が支持軸7に嵌合して伸縮するスプリング8の動作を緩慢にさせるため、結果として上蓋をゆっくりと上方に開放する機構となっている。

【0012】

この場合、回転具6内の構造は、図4に示すように上蓋2の下端部に円筒形状の外枠を形成し、該内周壁に沿って支持軸7が嵌合する構造となっている。この場合、支持軸7は、外形が円筒状であり、内部底面に突起を設けてスプリング止め12としている。

【0013】

一方、上蓋2の下端部設けた円筒形状の外枠内部にも突起を設けてスプリング止め11とし、スプリング8がこの2ヶのスプリング止めの間に固定される構造となっている。

【0014】

さらに上記支持軸7の側端部には蓋材が設けられ、この支持軸内にオイル9が封入されているが、スプリング8は、眼鏡ケース上蓋に設けられたプッシュボタン4を押すことによって下部係止具13から外すと変形状態にあったものが外側に向けて伸び出し、それと共に上蓋を上方に開放する。

【0015】

この場合スプリングの作動のみの場合は、上方への開放は直ぐに達成されるため使用者の手に当たったりして危険なため、支持軸内にオイルを充填しスプリングの伸縮を任意に押さえ、上方への開放がゆっくりとなるように調節している。

【0016】

別の形態の眼鏡ケースとしては、上記スプリングを使用する回転具に代え、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはベーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成される回転具であってもよい。

【0017】

これらの回転具は、ロータリーダンパーや揺動ダンパーといわれるものであるが、この場合、ロータリーダンパーは、オイルの粘性抵抗により発生する制動力（ブレーキ力）を利用した回転計のダンパーであり、円筒形状の本体内に回転軸を有するローターを嵌合させ、周囲にオイルを充填させてキャップで覆い、前記回転軸に上蓋の回転軸としてレバーやギヤにより接続させることによって上蓋を上方に開放できるようにしている。

【0018】

一方揺動ダンパーは、オイルの圧量を利用した回転系ダンパーであり、本体ケースの中に複数のベーンが回転軸と一体に取り付けられ、これらの隙間にシリコンオイルを充填させてキャップで覆い、前記回転軸に上蓋の回転軸としてレバーやギヤにより接続させることによって上蓋を上方に開放できるようにしている。

【0019】

【発明の効果】

本発明の眼鏡ケースは、回転具内にオイルを充填することによってスプリングの伸縮、或いはロータリーダンパーや揺動ダンパーの回転を押さえることによって回転軸に接続するレバーやギヤをゆっくり動かし、それに伴って上蓋を上方にゆっくりと開放する構造となっているため、使用者は片手で上蓋のボタンの係止を外すと自動的に上蓋を開放することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る眼鏡ケースの斜視図である。

【図2】 図1における眼鏡ケースの平面図である。

【図3】 図1における眼鏡ケースの正面図である。

【図4】 図2におけるA-A'断面を示す部分断面図である。

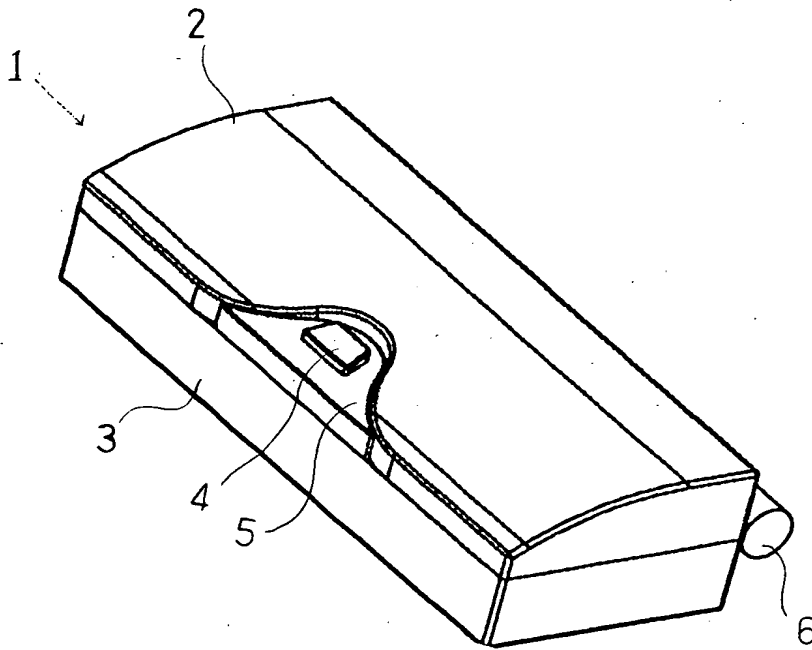
【図5】 本発明に係る別な形態の眼鏡ケースを示す斜視図である。

【符号の説明】

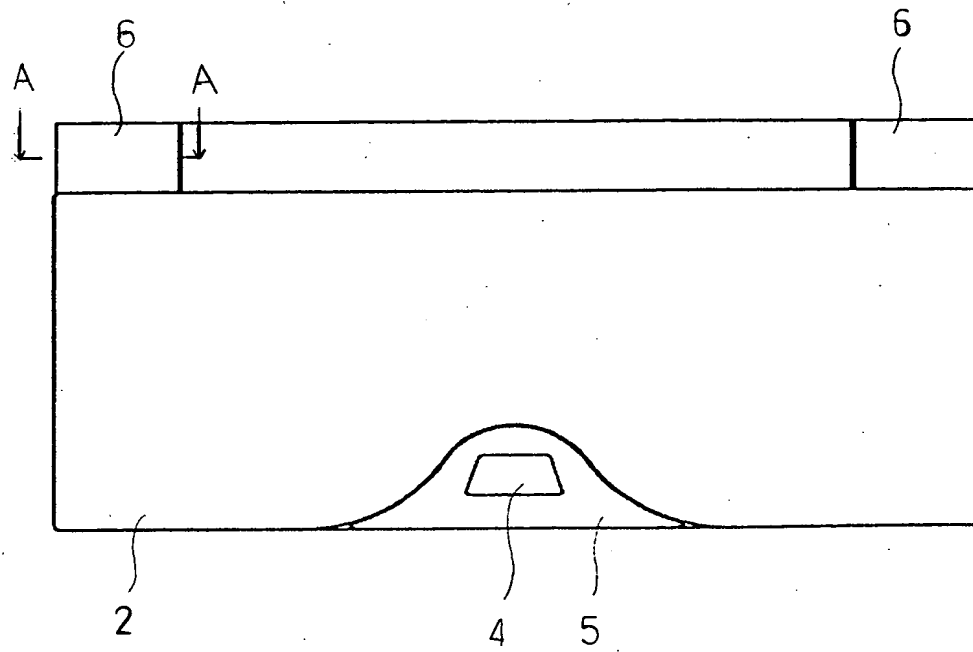
- 1 . . . 眼鏡ケース
- 2 . . . 上蓋
- 3 . . . 下蓋
- 4 . . . ボタン
- 5 . . . ボタン取付部
- 6 . . . 回転具
- 7 . . . 支持軸
- 8 . . . スプリング
- 9 . . . オイル
- 1 0 . . . スプリング止め A
- 1 1 . . . スプリング止め B
- 1 2 . . . 上部係止具
- 1 3 . . . 下部係止具

【書類名】 図面

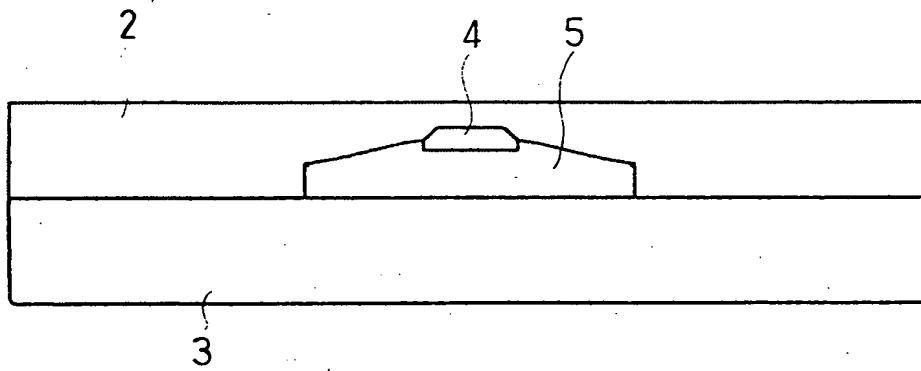
【図 1】



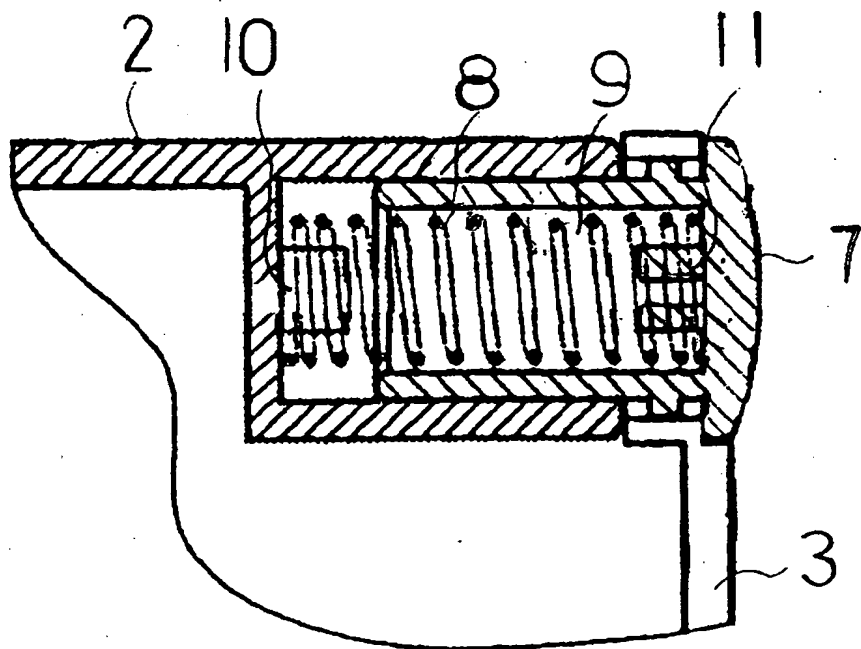
【図 2】



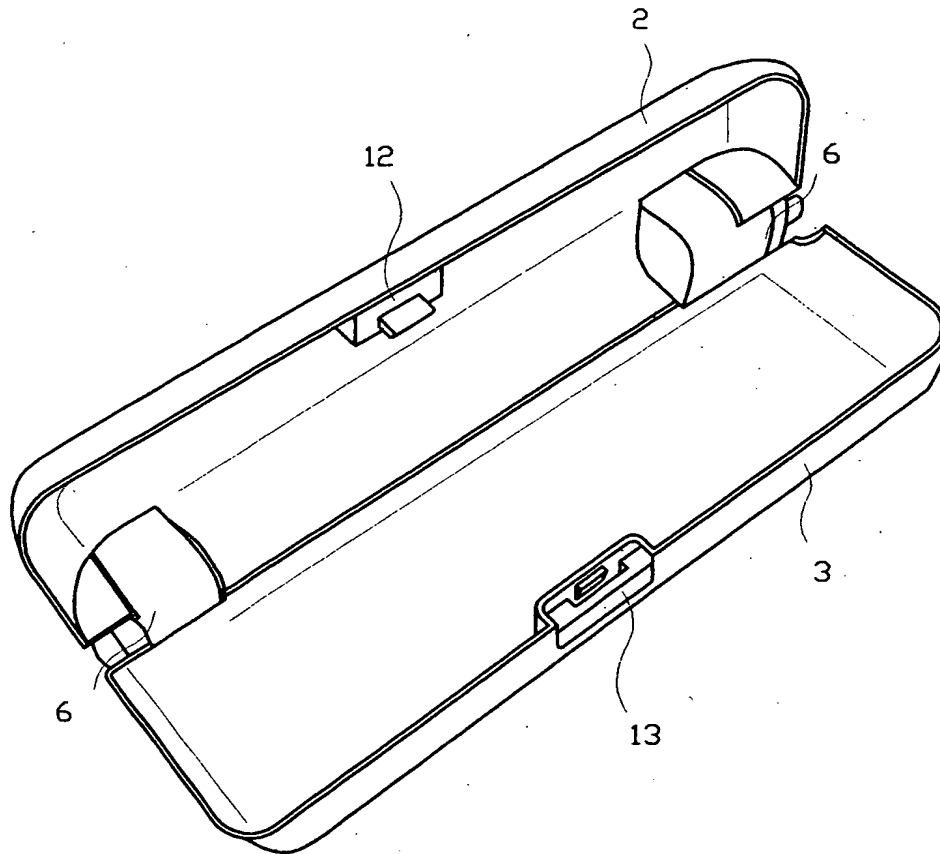
【図 3】



【図4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】従来の眼鏡ケースは、上蓋と下蓋とをヒンジ等を利用して一端を接合し、他端に取り付けたボタン等の係止を外して開放する形状であったため、両手を使って開放しなければならなかった。

【解決手段】本発明は、上蓋と下蓋との接続に回転具を利用すると共に、前記回転部内にオイルを充填し、オイルの粘性を利用して回転部内に設けたスプリングやダンパーの回転軸の回転を押さえながら自動的に上蓋を開放できる新規な眼鏡ケースを提供するものであり、使用者は片手で蓋体の開放や閉めを自在にできるものである。

【選択図】 図 1

特2002-201180

【書類名】 手続補正書
【提出日】 平成14年12月16日
【あて先】 特許庁長官 殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2002-201180

【補正をする者】

【識別番号】 300035294

【氏名又は名称】 株式会社栄商会

【代理人】

【識別番号】 100087550

【弁理士】

【氏名又は名称】 梅村 莞爾

【電話番号】 03-3255-2531

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 眼鏡ケース

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 上蓋及び下蓋からなる眼鏡ケースであって、上蓋に取り付けられたボタン部と、上蓋及び下蓋との接触部に取り付けられた回転具とが設けられ、ボタンの押脱により回転具内のスプリングが動き上蓋がゆっくりと上方に開放することを特徴とする眼鏡ケース。

【請求項 2】 前記回転具は、スプリングを支持する支持軸と該支持軸を内包する外匡とが一体化され、更に前記支持軸内にはオイルが封入されていることを特徴とする請求項 1 記載の眼鏡ケース。

【請求項 3】 前記回転具は、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはペーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成されることを特徴とする請求項 1 記載の眼鏡ケース。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、上下蓋体が一体化した眼鏡ケースに関し、更に詳しくは、上下蓋体接触部に内部にオイルを充填してある回転具を取り付け、上部蓋体がゆっくりと上部に回転する眼鏡ケースに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来技術】

従来の眼鏡ケースのうち上蓋と下蓋とが一体的な眼鏡としては、実開平 2 - 1 1 4 3 1 号「収納個付メガネケース」に示されるように、側端部にヒンジ部を介して上下に開放される構造の眼鏡ケースは公知である。

【 0 0 0 3 】

この形状の眼鏡ケースは、両手で押さえながら開放側に設けられた開放口を少し開け、その後に開放限度一杯まで開放して内部保管してある眼鏡を取り出した、或いは逆に閉めたりするのが通常であった。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら上記の従来型の眼鏡ケースは、両手を使用して上蓋を開放しなければならず、片手で操作が行えるような眼鏡ケースのように、例えばボタンを外すと自動的に上蓋が上方に開放するタイプの眼鏡ケースは今まで知られていなかった。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明者は係る課題を解決するために鋭意研究したところ、上蓋と下蓋との接触部に回転具を取り付け、回転具内の回転軸を利用して自動的に回転する眼鏡ケースを製造することができた。

【0006】

すなわち本発明の第一は、上蓋及び下蓋からなる眼鏡ケースであって、上蓋に取り付けられたボタン部と、上蓋及び下蓋との接触部に取り付けられた回転具とが設けられ、ボタンの押脱により回転具内のスプリングが動き上蓋がゆっくりと上方に開放することを特徴とする眼鏡ケースである。

【0007】

本発明の第二は、前記回転具は、スプリングを支持する支持軸と該支持軸を内包する外筐とが一体化され、更に前記支持軸内にはオイルが封入されていることを特徴とする請求項1記載の眼鏡ケースである。

【0008】

本発明の第三は、前記回転具は、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはペーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成されることを特徴とする請求項1記載の眼鏡ケースである。

【0009】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明に係る眼鏡ケースの斜視図である。本発明の眼鏡ケース1は、上蓋2及び下蓋3とが一体となるケース型形状であり、接合部の両端部に2ヶの回転具6が設けられており、反対側に設けられた上蓋を開放するボタン4がボタン取付部5上に取り付けられている。

【 0 0 1 0 】

この場合、ボタン取付部のボタンは、片手で外方向に引っ張るか、或いは内方向に押すと内部で上蓋 2 と下蓋 3 とに係合する係合部が外れる構造となっている。

【 0 0 1 1 】

上記係合部が外れると、上蓋 2 は他端部に設けられた 2 ケの回転部 6 の働きで上方に開放される構造となっているが、上記係合部の外れと共に直ぐに上方に開放するのではなく、回転具 6 内に充填されたオイル 9 が支持軸 7 に嵌合して伸縮するスプリング 8 の動作を緩慢にさせるため、結果として上蓋をゆっくりと上方に開放する機構となっている。

【 0 0 1 2 】

この場合、回転具 6 内の構造は、図 4 に示すように上蓋 2 の下端部に円筒形状の外枠を形成し、該内周壁に沿って支持軸 7 が嵌合する構造となっている。この場合、支持軸 7 は、外形が円筒状であり、内部底面に突起を設けてスプリング止め 1 1としている。

【 0 0 1 3 】

一方、上蓋 2 の下端部に設けた円筒形状の外枠内部にも突起を設けてスプリング止め 1 0とし、スプリング 8 がこの 2 ケのスプリング止めの間に固定される構造となっている。

【 0 0 1 4 】

さらに上記支持軸 7 の側端部には蓋材が設けられ、この支持軸内にオイル 9 が封入されているが、眼鏡ケース上蓋に設けられたプッシュボタン 4 を押すことによって上部係止部 1 2 を下部係止具 1 3 から外すと変形状態にあったスプリング 8 が外側に向けて伸び出し、それと共に上蓋を上方に開放する。

【 0 0 1 5 】

この場合スプリングの作動のみの場合は、上方への開放は直ぐに達成されるため使用者の手に当たったりして危険なため、支持軸内にオイルを充填しスプリングの伸縮を任意に押さえ、上方への開放がゆっくりとなるように調節している。

【 0 0 1 6 】

別の形態の眼鏡ケースとしては、上記スプリングを使用する回転具に代え、取り付け穴を有する本体ケースと、該ケース内部に嵌合したローター或いはペーンと、該ケース内部の隙間に充填したオイルと、蓋体とから構成される回転具であってもよい。

【0017】

これらの回転具は、ロータリーダンパーや揺動ダンパーといわれるものであるが、この場合、ロータリーダンパーは、オイルの粘性抵抗により発生する制動力（ブレーキ力）を利用した回転系のダンパーであり、円筒形状の本体内に回転軸を有するローターを嵌合させ、ローターの周囲にオイルを充填させてキャップで覆い、前記回転軸に上蓋の回転軸としてレバーやギヤにより接続させることによって上蓋を上方に開放できるようにしている。

【0018】

一方揺動ダンパーは、オイルの圧力を利用した回転系ダンパーであり、本体ケースの中に複数のペーンが回転軸と一体に取り付けられ、これらの隙間にシリコンオイルを充填させてキャップで本体ケースを覆い、前記回転軸に上蓋を上方に開放できるようにしている。

【0019】

【発明の効果】

本発明の眼鏡ケースは、回転具内にオイルを充填することによってスプリングの伸縮、或いはロータリーダンパーや揺動ダンパーの回転を押さえることによって回転軸に接続するレバーやギヤをゆっくり動かし、それに伴って上蓋を上方にゆっくりと開放する構造となっているため、使用者は片手で上蓋のボタンの係止を外すと自動的に上蓋を開放することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る眼鏡ケースの斜視図である。

【図2】 図1における眼鏡ケースの平面図である。

【図3】 図1における眼鏡ケースの正面図である。

【図4】 図2におけるA-A'断面を示す部分断面図である。

【図5】 本発明に係る別な形態の眼鏡ケースを示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 . . . 眼鏡ケース
- 2 . . . 上蓋
- 3 . . . 下蓋
- 4 . . . ボタン
- 5 . . . ボタン取付部
- 6 . . . 回転具
- 7 . . . 支持軸
- 8 . . . スプリング
- 9 . . . オイル
- 1 0 . . . スプリング止め A
- 1 1 . . . スプリング止め B
- 1 2 . . . 上部係止具
- 1 3 . . . 下部係止具

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [300035294]

1. 変更年月日 2000年 4月22日
[変更理由] 新規登録
住 所 静岡県浜松市神立町116番5
氏 名 株式会社栄商会